

広瀬川レポート

米ヶ袋会場 パシフィックコンサルタント株式会社東北支社 堀合孝博さん

Q まだ今ほど規模が大きくなかった2009年から実行委員会に加入されていますが、当時のことは覚えているでしょうか？

私は建設コンサルタントの技術者として、河川に関する仕事をおり、名取川・広瀬川に関わる仕事をしていたところ、広瀬川一人万人プロジェクトの取り組みを知って、関わっている川を少しでも綺麗にしたいと思い、参加したのが始まりです。

最初に参加した会場は名取川の富田会場でした。ごみの少なくなった広瀬川とは異なり、名取川は川幅が広く、死角も多いこともあり、自転車・タイヤ等の不法投棄をはじめ、たくさんのゴミがあり、愕然としました。

現在は会場運営の関係から富田会場が無くなっていますが、名取川の会場を増すことや、特に広瀬川については、毎回、決まった場所ではなく、会場を変えて縦断的に清掃を行うことも必要なのではと思います。富田会場では清掃後に会場担当の方が芋煮を振舞ってくれて、とても美味しい思い出です。

Q 最初の参加から10年が経ちますが、実行委員会や広瀬川で変化したと思うことはありますか？

加入団体や参加者が増えたことは嬉しいことですね。社会貢献の一環もあるのでしょうか、これだけ多くの方が川の環境を意識し、清掃に参加することは、非常に良いことだと思います。広瀬川一人万人プロジェクト実行委員会みなさんの地道な努力の成果だと思います。

一方で、広瀬川の会場では、徐々にゴミが少なくなってきており、参加者の増加もあってゴミの取り合いになっていますね。良いことなのですが、参加者が多い一方で会場を運営してくれる方がなかなか見つからないとも聞いており、会場を増やしていくことも今後の課題だと思っています。

川は上流から下流に流れていますので、ある場所だけきれいになんでも他



堀合さん(左から二人目)と
パシフィックコンサルタント株式会社東北支社の社員・ご家族の皆さん。

の場所にゴミがあれば、洪水で流されてその下流で溜まります。上流から下流まで縦断的に連続して綺麗にしていく必要があると考えています。

Q 一緒に参加している社員の方の反応はいかがですか？

清掃に参加している社員も、普段は電車や車で広瀬川の橋を渡るくらいで、川沿いを歩いたり、長靴で川に入ったりする機会がまったくないようです。なので、一見するときれいな河原も、実際に歩いてゴミを探してみると意外に多いことにギャップを感じたようです。

また、以前、米ヶ袋会場で、広瀬川の魚や水生昆虫を水槽にいれて見せてくれたことがありましたがあれも好評でした。

Q 広瀬川学校では様々な切り口で広瀬川に焦点を当てていますが、今後取り上げて欲しいテーマはありますか？

広瀬川学校については、河川清掃だけでなく、河川の環境や、仙台市含めた歴史・文化など、広い視点から川を捉えて活動されていると思います。以前、魚類、鳥類、両生類、は虫類、は乳類、陸上昆蟲類など、それぞれの生物をテーマにした勉強会があった記憶があり、子供等と一緒に捕まえたり見たりして勉強していましたが、基本に立ち戻って、川を歩きながら河川の環境を学ぶ機会があつても良いかもしれません。実施する時期についても、カジカガエルが鳴ぐ時期とか、桜の時期とか、アユや鮭の遡上時期(魚道の遡上を見学)など、季節毎の特徴を踏まえて考えてみるのも良いですね。

◆広瀬川1万人プロジェクト実行委員会のこれまでの主な活動内容

2002年 ● NPO法人水・環境ネット東北の発案により、仙台市の環境社会実験として「広瀬川1万人委員会」発足。
● 広瀬川流域の6会場で一斉清掃を実施。

2006年 ● 「広瀬川1万人プロジェクト」に名称を変更し、実行委員会体制とする。

2007年 ● はじめて一斉清掃を春と秋の年2回行う。

● 四季の広瀬川を楽曲にした弦楽五重奏曲「広瀬川」の制作発表に協力。

2008年 ● 作並会場を担当する市民団体と企業が主体となり、川に親しみイベント「作並かつば祭り」を開催。

2010年 ● 源流散策会やサケの観察会、広瀬川温熱環境測定への協力。

2011年 ● 東日本大震災の発生により、秋の一斉清掃のみ実施。
● フォーラム「震災の記憶～巨大津波はどう向き合うか～」を開催。

2012年 ● フォーラム「広瀬川の魅力づくりと市民活動」を開催。

2013年 ● 累計参加者数10,000人突破。

2014年 ● フォーラム「広瀬川で市民・企業・行政をつなごう」を開催。

◆実行委員会への加入について

広瀬川1万人プロジェクトではプロジェクトの目的に賛同して集まった団体・企業などが実行委員会をつくって活動しています。加入の用件はプロジェクトの目的に賛同し、以下の「実行委員会の役割」を担っていただけの団体・企業となっております。この趣旨をご了承いただき、私たちと一緒に活動していただける団体・企業を募集しています。加入申込書は、公式サイト <http://hirosegawa-sendai.org/> からダウンロードいただけます。また、清掃活動への参加や実行委員会への協力については個人での参加も大歓迎です。詳しくは下記事務局までお問い合わせください。

◆実行委員の役割 1.協賛金の提供／広瀬川1万人プロジェクトへの協賛金(1口10,000円／年度毎)のご提供
2.事務局業務への協力／流域一斉河川清掃実施にむけた、事務局業務への協力や、新規事業の企画運営業務などに関する協力
※以上の役割は、ひとつでも両方でも結構です。詳しくは下記事務局までお問い合わせください。

◆企業の社会的責任等（CSR活動）に関する参加証明書の発行について

広瀬川1万人プロジェクト実行委員会の主な活動である流域一斉河川清掃は、宮城県、仙台市など公共事業入札総合評価制度におけるボランティア活動への参加実績として、評価対象となっています。実行委員会に加入していただいた団体・企業には、清掃活動に参加いただいた場合、参加証明書を発行できます。詳しくは下記事務局までお問い合わせ願います。

広瀬川1万人プロジェクト実行委員会

(株)H-IIインフラシステム/JFEエンジニアリング(株)/(株)NJS/アイザワ工業(株)/赤坂建設(株)/旭イノベックス(株)/アジア航測(株)/熱海建設(株)/(株)熱海工務店(株)アドテック(株)阿部と工務店/阿部建設(株)/(株)阿部砂利建設/(株)安藤・間(株)石井組/(株)泉工務店/いあ(株)伊東工業(株)/ウスマ地域総研/(株)エクシオテック/荏原実業(株)/遠藤建設(株)/遠藤興業(株)/遠藤工業(株)/奥田建設(株)/奥山工業(株)/(株)オリエンタルコンサルタント/オルガ(株)/アルガノプラントサービス(株)/開成エンジニアリング(株)皆成建設(株)/回胴式遊技機商業協同組合東北支部/鹿島建設(株)/(株)鎌田建設/川田建設(株)/川田工業(株)/木皿建設(株)/(株)協栄興産/(株)協和エクシオ/協和設計(株)/金福建設(株)/栗田工業(株)/栗村建設興業(株)/(株)栗本鐵工所/(株)建設環境研究所/(株)建設技術研究所/(株)コウリョウウ/(株)興盛工業所/コーツ工業(株)/国際航業(株)/古久根建設(株)/後藤工業(株)/(株)鶴井ハルヒツ(株)/小松建設/サイト工業(株)/作並地区未来プロジェクト/佐々良建設(株)/佐藤工業(株)/佐藤鉄工(株)/(株)サークル/三建設/三建設(株)/サンコーコンサルタント(株)/三洋テクニクス(株)/三洋フノマリン(株)/(株)三洋設計/ジオ・サーチ(株)/重吉興業(株)/(株)芝玄(株)柴田建設工業/情報労連宮城県協議会/城北興業(株)/ジョンソンコントロールズ(株)/水(株)/水道機工(株)/(株)水機テクノス/西武建設(株)/星和電機(株)/(株)錢高組/仙建工業(株)/(公社)全国上下水道コンサルタント/潜匿建設(株)/センソクコンサルタント/仙台アスコン(株)/仙台環境開発(株)/(一社)仙台建設工業協会/仙台市/仙台市カースー協会/仙台土木建築工業(株)/仙台南地区広瀬川環境美化推進協議会/仙浦建設(株)/大気社/大日本コンサルタント(株)/(株)大和エクシオ/アリヤン(株)/ダイワ技術サービス/大和電設工業(株)/大同機工(株)/(株)鷗島閣岩松旅館/鷗島建設(株)/龍上工業(株)/玉野総合コンサルタント(株)/(株)丹勝/千田建設(株)/中央コーポレーション/中央コンサルタント(株)/(株)長大/通信道路(株)/月島テクノメンテサービス(株)/月島機械(株)/テクノ・マインド(株)/(株)テクノ・東北/東京コンサルタント(株)/東光電気工事(株)/(株)東信空調/銅谷建設(株)/東鉄工業(株)/東北学院大学/東北共栄建設(株)/東北三建サービス工事(株)/東北遊技機商業協同組合/(株)東北アライズ/東北緑化環境保全(株)/(株)東北ロントック(株)/東洋技研/東洋熱工(株)/(株)東建工(株)/ドーコン/飛島建設(株)/中田建設工業(株)/中野建設コンサルタント(株)/(株)ナカムラ/(株)ナスキー/名取川水系水質汚濁対策連絡協議会/(特活)名取ハマボウフウの会/西松建設(株)/(株)日啓工業/日建工(株)/日道建設(株)/ニッカウヰスキー(株)/日本工営(株)/日本ブタック(株)/日本ロード・メンテナンス(株)/能美防災(株)/パシフィックコンサルタント(株)/(株)橋本店/(株)パスコ/長谷川建設(株)/八本松地愛護協力会/東日本コンクリート(株)/広瀬川市民会議/(特活)広瀬川ボートくらぶ/広瀬川を楽しむ会/(株)広瀬組/(株)深松組/(株)フジタ/フジタ道路(株)/富士通ネットワークソリューションズ(株)/(株)富士測地開発/(株)復建技術コンサルタント/古河産機システムズ(株)/(株)横田組/(株)丸島アクリアシステム/(株)丸鉄工/(株)三浦組/(特活)水・環境ネット東北/(株)みずほ電設工業/三井共同建設コンサルタント(株)/(株)宮城衛生環境公社/宮城県建設業青年会/美和電気工業(株)/八千代エンジニアリング(株)/(株)山下設計/山辰建設(株)/大和工業(株)/(株)湯田建設/横河ソリューションサービス(株)/ライト工業(株)/ラススピルチクリービング(株)/若葉建設(株)/(株)ワタケン/(株)渡辺技工/(株)渡邊舗装工業

お問い合わせ

広瀬川1万人プロジェクト実行委員会事務局

TEL080-7004-4932 FAX022-739-8814 E-mail contact@kawara-ban.org

〒981-0952 仙台市青葉区中山6-1-12-101

H P <http://www.hirosegawa-sendai.org/>

広瀬川 1万人プロジェクト

2018年度活動報告



広瀬川流域一斉清掃レポート

第25回 春の清掃 2018年4月21日(土)

ゴミの数合計 178袋
参加者数合計 1487人

第26回 秋の清掃 2018年9月29日(土)

ゴミの数合計 339袋
参加者数合計 2065人



社の都・仙台のシンボルである広瀬川。その自然環境を守り、より多くの市民が親しめる広瀬川とするため、100万都市仙台の1%にあたる1万人をキーワードとして、市民・企業・行政が連携して様々な取り組みを行っています。

アイハート広瀬川
広瀬川創生プラン

【おいしいウヰスキーガできるまで】

正午過ぎに仙台駅から参加者を乗せた電車が作並駅に到着しました。平日にも関わらず申込みをしてくださった参加者の皆さんと一緒に、ニッカウヰスキー仙台工場へ向かいます。

工場でははじめに、目の前を流れる新川の河原において、五感で新川を感じてもらいました。低く垂れ込めた雲からシットシット雨が降る天気でしたが、木々の葉っぱは緑が濃く光り、この天気を喜んでいるようです。



初夏の濃い緑と霧の中を流れる新川。耳をすませば、せせらぎとともに聞こえてくるカジカガエルの求愛の歌声。手で触ると、冷やつとする水。風向きによって工場から運ばれてくる、ピートの香。そして、新川の水は、試飲の際のお楽しみとして、見学＆テイスティングセミナーの前に河原を楽しみました。

工場見学では、しめ縄がかけられたボックスチル蒸留タンクやウヰスキーを長期熟成させる倉庫を回りました。しめ縄とタンクの見ちょうど変わった組み合わせは、和と洋が一体となった、ジャバニーズウヰスキーを象徴しています。作業や貯蔵用の倉庫の色も特徴的で、木々の緑に馴染む赤煉瓦が使われています。工場敷地は必要最低限の木々を切つただけで、平に整地をせずそのままの地形を利用した、自然を生かした設計になっているそうです。また、電線も全て地中化されおり、日常の目に見える街の風景とは異なり、創設者の竹鶴さんが工場をつくった



た当時の景色を見ているようです。今回は特別に樽を焼く工程を見せて頂きましたが、炎が豪快に上がり耐熱ガラス越しにも熱を感じます。参加者の皆さんには良い写真を撮ろうとガラスに近づいて行くので、ちょっととハラハラしながら、遠目から写真を撮りました。

テイスティングセミナーでは6種類のウヰスキーを味わいました。（通常のセミナーは5種類ですが、今回は広瀬川市民会議の協賛で竹鶴を追加して頂きました）始めは鈍感な味覚も、何度も色や香り、味の違いを確かめているうちに五感が研ぎ澄まされていく時間でした。



第7回 広瀬川学校

平成31年2月10日

【プラスチックゴミのゆくえ】

～海を汚しているのはだあれ？～（MELON環境市民講座共催）

講話①【水環境を脅かすゴミの問題】

東北工業大学教授 山田一裕さん

はじめに、山田教授が青年海外協力隊でモロッコの水質検査隊員として活動した体験から、途上国の生活の変化とゴミの問題について紹介がありました。ゴミ処理に対する生活習慣が、自然のものは自然是自然に帰るという認識は、以前の日本にもあった考え方ですが、先進国から急速にプラスチック製品が流入したことから、処理が全く追いついていない状況です。穴を掘つて埋めたり、ただ野積みにしたりするオープンンダイブや野焼きにするオーブンバーニングは、環境面でも衛生面でも非常に悪影響がありますが、それらを受け入れることで生計を立てる貧困層もあり、複雑に社会問題が絡み合っています。

最近特にメディアで取り上げられるマイクロプラスチック問題についても、紹介がありました。朝日新聞と河北新報において



で1995年～2018年の期間で「マイクロプラスチック」という言葉が登場するようになたのは、2014年ごく最近からで、「漂着ゴミ」や「海ゴミ」は1998年からと割と古くから使われているそうです。マイクロプラスチックについては、水環境学会での論文等も紹介されました。マイクロプラスチックは一般的に、大きさが5mm以下であり、海に流れ出たペットボトルなどのプラスチックが、紫外線や波、昼と夜の温度差や海水といった厳しい環境にさらされることで劣化し小さくなつたものです。ウミガメやクジラなどの海洋生物がエサと間違つて食っているニュースなどを目にすると、それが海面や海中を漂つていると想われるがちですが、その多くが海底に堆積していると考えられているそうです。東京湾に浮いているマイクロプラスチックが3個／平方メートルに対して、海底には60000個／平方メートルと試算されていることにも驚きました。

日本海のマイクロプラスチックの平均密度は374個／立方メートルで、世界平均の約27個／立方メートルで、世界平均の約27

倍もあります。これまでアジア諸外国から流れ出たプラスチックが、その原因と考えられていました。しかし、荒川のほか、最上川や利根川など全国の29河川を調査した結果、平均密度は323個で日本海とほぼ同じとすることが分かり、人口密度の高い河川ほど密度も高くなつたそうです。漂着ゴミがマイクロプラスチックの原因であり、それは海外からやってくると考えましたが、それほど大きな間違いであることが分かりました。同時に広瀬川流域一斉清掃で河川ゴミを減らす取り組みは、海洋ゴミ・マイクロプラスチックを減らす効果があることを改めて実感しました。

しました。ゴミ拾いをはじめると、漁具などの大型ゴミに混じって、プラスチックの謎の物体が沢山見つかつたそうですが、その正体は、ある映画をきっかけに分かりました。旧荒浜小学校で「波伝谷に生きるひとびと」という、南三陸町戸倉の漁港をテーマにした映画の上映会で、その謎の物体が、牡蠣の養殖に使う「豆管」であることが判明しました。映画の妻監督とともに波伝谷を訪ねた際に、豆管を漁師さんにお渡しして再利用してもらつたそうです。

この場所に工場を決めたきっかけや、自然をそのまま残しながらの建設したことなどお話を伺いながらの2時間のセミナーはあつという時間でした。

テイスティングセミナーでは6種類のウヰスキーを味わいました。（通常のセミナーは5種類ですが、今回は広瀬川市民会議の協賛で竹鶴を追加して頂きました）始めは鈍感な味覚も、何度も色や香り、味の違いを確かめているうちに五感が研ぎ澄まされていく時間でした。



講話②【荒浜の再生と海洋ゴミについて】

荒浜復興推進協議会植物再生部 貴田喜一さん

昨年度より、県内各地の海洋ゴミ調査を実施しており、荒浜と南三陸の荒島がとてもごみが多いとの報告がありました。今後は、調査とともに今回のこのようなセミナーを通じて、海洋ゴミの原因となるポイ捨ての削減と資源ゴミの適正な処理、そしてゴミの発生につながるもの断るリサイクルの推進について提言がありました。

前述の荒浜復興推進協議会とともに、広瀬川流域一斉清掃では荒浜海岸会場を担

当してくださいました。

荒浜海岸の様子も想像できますが生まれ育つた地域の浜がそのような状態になってしまった事に対する想いは、暮らした事がない人は理解しがたいのではないでしょうか。2012年2月から海岸清掃がスタート



講話③【消費者ができるごみ排出削減行動とは】

公益財団法人みやぎ・環境どくらしネットワーク4R部会

菅田華江さん

しました。ゴミ拾いをはじめると、漁具などの大型ゴミに混じって、プラスチックの謎の物体が沢山見つかつたそうですが、その正体は、ある映画をきっかけに分かりました。旧荒浜小学校で「波伝谷に生きるひとびと」という、南三陸町戸倉の漁港をテーマにした映画の上映会で、その謎の物体が、牡蠣の養殖に使う「豆管」であることが判明しました。映画の妻監督とともに波伝谷を訪ねた際に、豆管を漁師さんにお渡しして再利用してもらつたそうです。

テイスティングセミナーでは6種類のウヰスキーを味わいました。（通常のセミナーは5種類ですが、今回は広瀬川市民会議の協賛で竹鶴を追加して頂きました）始めは鈍感な味覚も、何度も色や香り、味の違いを確かめているうちに五感が研ぎ澄まされていく時間でした。



この場所に工場を決めたきっかけや、自然をそのまま残しながらの建設したことなどお話を伺いながらの2時間のセミナーはあつという時間でした。

テイスティングセミナーでは6種類のウヰスキーを味わいました。（通常のセミナーは5種類ですが、今回は広瀬川市民会議の協賛で竹鶴を追加して頂きました）始めは鈍感な味覚も、何度も色や香り、味の違いを確かめているうちに五感が研ぎ澄まされていく時間でした。

この場所に工場を決めたきっかけや、自然をそのまま残しながらの建設したことなどお話を伺いながらの2時間のセミナーはあつという時間でした。

テイスティングセミナーでは6種類のウヰスキーを味わいました。（通常のセミナーは